

**災害環境研究プログラム 災害環境マネジメント研究プログラム**

**委員会の主要意見**

現状についての評価・質問等

- アクションリサーチを災害環境マネジメント研究の基本として運用する方針を提案して自然災害に対する実証的な研究が順調に進められており、これまでの研究成果が平成 30 年7月豪雨(西日本豪雨)などへの対応に役立っていることを高く評価したい。
- 災害の種類、程度、パターンなどでどのような環境問題が生じるのか、調査事例としてどこをカバーしているのかなど、俯瞰的な情報も示して欲しい。

今後への期待など

- 発災時の被害をできるだけ低減するためのリスク管理、発災後の被害の拡大を抑え込むための危機管理について、それぞれの有効性の具体例を整理することで、次への備えや他地域への効果的・効率的対策につながると思われ、成果の見える化を期待したい。
- この研究プログラムの一連の研究とは異質な研究も含まれており、災害環境マネジメントとして総合的な戦略を提供できるよう、整理されたい。

**主要意見に対する国環研の考え方**

- ①アクションリサーチという実証的研究のサイクルにおいて、頻発する自然災害への対応にも貢献していくことは重い課題です。実証研究の成果として学術的価値の一般化と実務的価値の一般化にメリハリをつけて、効率的に進めるべきと考えています。
- ②過去の様々な災害の経験が蓄積されてきたことから、俯瞰的な整理を試み、体系化も意識しながら今後研究展開を構想していきたいと思います。
- ③災害への強靭性は、ご指摘のように事前対策を含めた被害低減策と発災後の被害拡大防止・早期回復対策が重要であると考えています。実証的研究の具体事例分析において意識し整理していきたいと思います。成果についても、社会還元も意識して見える化していきたいと考えています。
- ④異質に感じられた幾つかのプロジェクトについては、位置づけを再検討するとともに、災害環境マネジメントの全体コンセプトを明示していく中で位置づけを説明できるようにしていきたいと考えています。